

税金の正体

埼玉県立芸術総合高等学校

三年 島田 亜沙美

喉が渴いたので自動販売機で飲み物を買おうとした時、横にある回収ボックスが目がいつてしまった。箱に入りきらなくなったペットボトルが地面にいくつも捨てられていたのだ。これを見て汚いと思うのは自然なことだろう。

同時に、もし箱が無かったらどうなっていたかを想像してしまった。きっと今よりもっと多くのペットボトルが地面に捨てられていただろう。すぐにスマホで回収ボックスの設置費用やゴミの処理費用の出処を調べてみると税金である事が分かった。そして他にどんな物が税金で出来ているのか調べてみた。例えば信号機だ。普段当たり前のように赤信号だと止まるし、青信号だと進む。しかし信号機が無かったらどうなっていただろう。きっと色々な方向から車や人が向かってきて、目的地まで行くのに倍の時間がかかるだろう。それだけではなく、事故の件数も倍になるはずだ。

そもそも私たちが歩いている道路も税金で出来ている。もし道の表面が整えられておらずデコボコだったら車やバスはとてもし走りにくいだろう。もしかしたら道路にヒビが入ってしまった、車が走る事自体が困難になるかもしれない。そんな状況になったとして率先して自分から道路を直す人は少ないだろう。あるいは居ないかもしれない。回収ボックスや信号機も同様だ。

今まで税金の使い道を聞かれた時、医療のイメージが強く、普段病院をほとんど使わない私は何だか損した気分になっていた。しかし実際は違った。ある事が当たり前になっていたから気付かなかただけで私たちは毎日、今この瞬間も税金に支えられて生きているのだ。「日本は安全だ」という言葉を良く耳にするが、これも税金のおかげだと思う。考えてみれば生活する上で不快感や危機感を感じたことがあまり無い。これは税金で町が綺麗に保たれて、警察が町をパトロールしているからだろう。

正直、最初は税金にマイナスのイメージを持っていた。買い物をする時は消費税がかかるし働くとき所得税をとられたり、払う事しか考えていなかったからだ。本当は私たちのお金で私たちの当たり前の安全を守っているだけのこと、そこにマイナスもプラスも無い。

必要不可欠の、損得を超えた特別な存在なのだ。

私たちは今日もこれからも税金によって毎日一分一秒を安全に当たり前のように生活を送る。この当たり前を未来へ託していきたいと私は思うのだ。